

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー（施設園芸コース）
～取材報告書～

取材日：令和3年（2021年）9月18日（土） 阿蘇・南阿蘇地区

1. 「就農への道すじ」トークライブ
綿住輝氏×NPO 法人九州エコファーマーズセンター吉村事務局長 ……P1
2. 「南阿蘇村での新規就農と実情」 山中大輔氏プロフィールより ……P11
3. 「新規就農とアグリツーリズム」 荒木昌造氏 「持続可能な農業を目指して」 ……P14
4. 農家さんへの質問 「綿住輝氏」編（阿蘇市：アスパラ農家） ……P17
5. 農家さんへの質問 「山中大輔氏」編（南阿蘇村：イチゴ・トルコギキョウ農家） ……P21
6. 農家さんへの質問 「荒木昌造氏」編（南阿蘇村：トマト、ミニトマト、農泊、カフェ）……P23
7. 研修機関への質問 NPO 法人九州エコファーマーズセンター吉村事務局長 ……P26
8. その他の質問 熊本県新規就農支援センター ……P27

[取材] 熊本県新規就農支援センター

[取材協力] NPO 法人九州エコファーマーズセンター 吉村事務局長
（兼任：NPO 法人熊本県就農支援機関協議会事務局長）
（兼任：熊本県地域就農支援アドバイザー阿蘇地区担当）

南阿蘇村農業研修生受入協議会
阿蘇地域振興局 農業普及・振興課



熊本県新規就農支援センター

取材内容の一部は熊本県就農支援センター公式Instagramに

動画掲載しています。(2021年9月20日～10月3日投稿分)

1つの投稿記事に約10件の写真・動画を掲載していますので、スライドして
ご確認ください。



◆アスパラ農家 綿住輝氏×吉村事務局長トークライブ (2021年9月18日(土))

目次

1. アスパラ農家 綿住輝氏インタビュー

2. 「就農への道すじ」トークライブ

綿住輝氏 × NPO 法人九州エコファーマーズセンター吉村事務局長

1. 綿住輝氏 (阿蘇市一の宮町) アスパラ農家インタビュー

プロフィール

熊本市出身。済々黌高校から長崎の大学へ進学。前職はデイトレーダー。トレーダーとしての生活に疲れ、収入も伸び悩み、誰とも話さず部屋にこもってパソコンを見続ける生活に疑問を感じ、35歳の時に農業を職業に選ぶ。その際、研修機関のNPO法人九州エコファーマーズセンターに相談をしたことがキッカケで、アスパラガスの農業師匠 室治夫氏と出会い2年間の研修後、平成25年(2013年)独立就農。室氏の第1号研修生。

2年研修を受けて、はじめはお米とアスパラガスを作っていましたが、今はお米をやめてアスパラガス1本でやっています。

労働力は自分と奥さんの2人で、自分が9割、奥さんが1割の仕事を担っています。

栽培面積は32aで独立した時からこの広さでやっています。

皆さんが気になっている売り上げですが、だいたいアスパラガスは値段が安定しているので、1棟あたり約100万から120万円で、ハウスが12棟ありますので1300万円から1500万円の売り上げです。(その中で)経費率がだいたい40%くらいです。

●農業をはじめた動機

自分が農業をはじめようと思った動機は、大学を7年いったあとにデイトレーダーを25歳から35歳までやっていて、10年も家に引きこもってそういう事続けたら、うつ病みたいになって、1日誰とも話さない生活だったので、声も出なくなって、これはヤバイなと思いました。職歴もなかったため、人に雇われるのも違うと思い、自営業をすることにし、その中で農業を職業として選びました。(今から約10年前の話)

ネットで調べていたら、当時NPO法人阿蘇エコファーマーズセンターと呼んでいた「NPO法人九州エコファーマーズセンター」が農業をしたいと思う人を、熊本県下の農家さんへつなぐ役割をしている研修機関があることを知りました。

その時、現地研修バスツアーで(NPO法人九州エコファーマーズセンターを立ち上げた)

木之内農園さんのところに行かせていただいて、最初は芋掘り体験をさせていただいたのですが、その時、今隣にいる吉村さんと、就農指導員の平岡さんと木之内均会長がいました。

「農業をやりたいんですけど…」と話をすると「今、阿蘇ではアスパラが上手くいっているのでそこで勉強するといい」と勧められて、阿蘇の大師匠 室治夫さんを紹介していただいたのが始まりです。

●どんな方に農業をすすめるか

今のサラリーマンの現状が楽しかったり、満足している人にはあまりお勧めしません。それだけリスクもとても高いです。でも、僕みたいに人につかわれるのが嫌とか、面倒くさい上司、同僚、取引先とか、毎日8時に出社して5時に帰るとか、そういう風なことに縛られるのが嫌な人にはおすすめます。それだけハングリー精神があると思うので、もし、今で満足してる人には(農業で独立は)辞めたほうが良いと個人的には思っています。

アスパラの旬は4月5月です。この時は一番量が多くて、単価も高く、今の時期(9月18日)は休眠といって、アスパラガスは毎年植えない作物なんですよ。

10aで10キロ、多い時で70キロくらい採れます。

●販路先について

出荷は全部 JA 阿蘇です。販売の方はJAにお任せして、生産に集中するという農業スタイルを取っています。3月から10月が収穫時期ですが、その間も土壌分析したり水かけたり肥料をうったりしていますが、それ以外は休みの期間もありますし、収穫の段取りをして今日は早めに終わって辞めようという風に自分の時間をつくるのが出来るのも農業の魅力の1つだと思います。

●土づくりが大事ですか？

水耕栽培では別ですが、やはり土耕栽培の場合は土づくりが一番大事ではないかと思っています。

●堆肥とかも？

そうですね。たい肥とかもです。微生物を混ぜ込んで、堆肥の中で微生物を増やしてハウスの中に入れる。いい微生物をたくさん供給して病気に強い土づくりをしています。

あと肥料もバランスよく。やはり人間と一緒に食べ過ぎたらメタボとかになってしまうので、100%正解というのはありませんが、ある程度バランスの良い肥料のやり方をしています。

●肥料はJA指定の肥料ですか？

はい。JA指定の肥料です。いっぱい種類がある中から選んでやらせていただいています。

●1日の流れ

朝5時に起きてまずは収穫をはじめて、それが終わるのがだいたい9時くらい。

そこから水をかけて肥料をかけて、そこから2回目の収穫が1時です。アスパラは伸びるので。それが終わるのが5時くらい。それを箱に詰めて出荷する。それがだいたい1日の流れです。3月から10月までそのような流れです。

●収穫はおひとり？

僕がだいたい9割、8割くらいで、奥さんが1~2割くらいです。

10月までの収穫の時期が終わると、枯れるので、それを切って出して、焼却しないとイケないのですが、その作業がだいたい12月終わりから1月。

また土壌分析して肥料をうって、堆肥マルチといって草が生えないように軽く堆肥をのせたりします。これがだいたい1月とか2月です。この時期はだいたい、ゆっくりしています。無理に急ぐ必要もない作業なんで。あとは年によってはハウスのビニールを変えたりします。

農家仲間さんのビニール張替やハウス建てを手伝いにいったりもします。

●ビニールはどれくらいの割合で変えますか？

4~5年に1回ですね。阿蘇地方は火山灰があるとすぐ劣化してパリパリになっているので廃棄しています。張り方が悪くて皺が寄ったりするとちょっとした強風でバタバタして破けたりとか、そういうのもたまに見ます。

●昨日の台風の風は大丈夫でしたか？

昨日のような990hPaくらいの風は大丈夫です。ただ、960~970hPaで有明海から佐賀の方に上っていったりすると、結構ヤバいです。

●場所によるということですね

そうですね。

●最近、何か被害はありましたか？

被害はないですね。独立して10年なんですけど、ほとんど被害がなく、そこはラッキーだったかなと思いますし、あと農業共済といって本当にやられた時に保険があるんですよ。基準価格の8割くらいは保証されます。国の補助が出る場合もあるし、収入保険といって収入が全部無くなった時の保険もあります。

●収入保険をかけながら施設園芸をしているのは経営の安定のためですか？

安定のためです。リスクを軽減するためにやっています。

●軌道にのるまでの1～2年をどうやって過ごしていききましたか？

最初から結構売上げをあげることができました。

何故かといったら師匠をまるごとパクッていたからです。師匠がすごい方で、売上げを結構あげていたの、それを真似するのが一番経営を軌道にのせるのに早いと思いました。

軌道にのっていけば、自分の色を出していかないといけないと思いますが、最初のうちは、これまで何十年もやられている方の真似をするのが経営を軌道にのせることへの一番の近道ではないかと思います。栽培方法とかも全部、同じようにやりました。すると若干師匠より売上げは落ちるのですが、(そのうちに)結構近づいていったりするので、それが一番早道かなと思います。

●アスパラの植え込みはいつ？

師匠のところで2年間研修を受けさせていただいたあと、植えました。(アスパラは)最初1年間は採れないんですけど、2年目からはある程度売上げがとれて、多分1千万円は超えていたんじゃないかなと思います。

●経費はどれくらいかかりますか？

経費は10売上げがあったとしたら4くらいです。だから残るのが6から7税引き前です。それから税金が思いっきり引かれます。

2. 「就農への道すじ」トークライブ

綿住輝氏×NPO 法人九州エコファーマーズセンター吉村事務局長

●就農をするにあたって一番大事なことは？

やっぱり行動をすることだと思います。県の各相談窓口や就農したい場所の役場やJAさんや研修機関を訪れて色々な農家さん紹介してもらうのは大事な事かと思います。

僕の場合は研修機関のNPO 法人九州エコファーマーズセンターを訪れて、そこで師匠となる室さんを紹介してもらって今がありますので、全く農業がわからない場合は、師匠農家をつなぐ役割をしてくれる研修機関を訪れて、そこで色々な農家さんを紹介していただいて、自分がやりたい農業に合っている農家さんを見つけていくのが一番いいのではないかと思います。

●(吉村事務局長)新規就農する場合こういうことは気をつけた方がいいよ という事はありませんか？

(綿住さん)やっぱり最初の初期投資を抑えるということですね。入ってみるまで農業に向いてる、向いてない、稼げる、稼げないとか、農業をやって幸せになるとか、そういうのは結局わからないんですよ。1歩を踏み出さないと。それで一歩踏み出して、自分に向いてないな—と思った時、辞めれる状態を作っておくために、初期投資をゼロに近づけるのが一番大事だと思います。それではどうやってゼロに近づけるかというと、師匠だったり周りの人の助けが必要となってくるのかなと。農機具を無償で貸してもらったり、いい土地を安価な値段で紹介してもらったり、あと機械、施設などを安く譲ってもらったりとか。

それらは全部人とのつながりです。自分の知り合いもただでハウスや機械を譲ってもらって、この間はトラクターをただでもらったという人もいて、それらは全部人とのつながりで廻ってくるものなので、周りの人を大事に皆んなと協力してやっていったら、おのずとそういうチャンスもめぐってくるものじゃないかなと思います。

●(吉村事務局長)綿住さんへの質問「どうやってこの人が私の師匠だと決断しましたか？」

(綿住さん)最初に会わせていただいたのが室さんという今の私の師匠で、この方は常に研修生のことを考えていて、研修生を労働力として見るのではなく、熱い思いで後輩を育てよう、地域を盛り上げよう、熊本県を盛り上げよう、という方なので、たまたま僕はそういう方に最初に廻りあえたので良かったと思っています。

●(吉村事務局長)綿住くんが師匠を見つける時の経過を話しますと、バスツアーに参加した時に農業体験をしている姿を見たり、またお金の話とか、単純作業に耐えられるかとか、色々話を聞いた時に、なるほど綿住くんだったら大丈夫、やれるんじゃないかなと思いました。

アスパラというものは初期投資がある程度必要ですので、自己資金が必要です。綿住くんは資金もある程度持っていたらいいと思います。

そこで室さんを紹介したところ、真摯な態度で研修を受け、だからこうやって就農に至ったのではないかと思いますし、師匠にも巡り合えたんじゃないかと思います。それもある面じゃ運ですよ。(運を引き寄せる)。室さんが研修生を迎え入れたのが、綿住くんが第1号です。

●「農業をはじめて成功する方、失敗する方」

(綿住さん)まずは地元で就農する方、移住されて就農する方、全く違ってくると思いますが、移住して就農される方はとてもハードルが高いと思います。その中でも成功していく方というのは、やっぱりハングリー精神がある方じゃないかなと思います。自分も土すら触ったことがない状態から始めているので、これがダメならあとはないという感じで、必死でやっていました。あと一番大事なことは、人を大事にするということ。必ず周りの方は一生懸命頑張っているのを見ているので、困った時は助けてくれたり、こうしたらいいよとか技術的なことや色々な面でサポートしてくれます。自分1人じゃ何もできないので、周りの方のサポートがあって今があると思うので、何の仕事でもそうだと思いますがそれが大事なことかなと。

その中で農業は自由があるので他の組織に入られているサラリーマンの方に比べて自由があり、自分の裁量が効きます。やはりそこは自己責任なので自己責任の考え方が強い人、周りのせいにしらない人、天気のせいにしたり、周りの人のせいにしたりしない人がやっぱり成功していくんじゃないかなと思います。

(吉村事務局長)どれをもって成功するのか、しないのか これは人によって違ってくると思います。まずはどのような目標を明確にもっているのか、それが大事です。

自分はこうしたいと人にふられるのではなく自分の目標なり考え方なりを持ってないといけません。その上で自己責任であるという部分が出てきますが、やはり農業で成功するのはただ単に話を聞いたりとか、筆記でもって能力を持っているとか、知識を持っているとかでは出来ません。やっぱり現場です。特に家族経営でやっている上においては現場で農業の汗をかきながら実際に現場でコツコツとやる。これがないとスタートは出来ないという風に思います。

したがって我々の方は(この人は)成功するとかを見るためには、現場でのどういう風な作業態度、眼差し、考えでもってやるかと。そして熱意をもってやるかどうかです。それを農業

インターンシップ体験の中で見たり、研修の中で見たりするのです。そのところを見ないと(その人が)成功するかどうかはわかりません。

その上で、お金を持っている、持っていないがあり、お金を持っている人で、自分の考えを貫くことはできます。それは出来ますが、本当に幸せな生活を送れるかどうかはわかりません。稼ぐことはできます。しかし、周りの人と色々やっていきたいという風に考えている人にとっては、やっぱり仲間、地域の人たちとのつながり、信頼関係を作っていくこと、それを作れない人は上手くやっっていけないという風に思います。

そこが上手くやれば、先ほど話が出たように、トラクターをただで手に入れることが出来るということがあります。それは農地もハウスも同じです。ですからお金を持たない人は地域の人たちと信頼関係を結んで、自分の考え、どんな形でやっていきたいのかをきちっと伝えていくというようなコミュニケーション能力がやっぱり必要だと思います。

今、綿住くんを見ていると農家さんとのコミュニケーションはもちろんですけど、他の人たちとのコミュニケーションもとってらっしゃって、そういったことは大事なんじゃないかと思えます。サラリーマン時代とは違った別な人間関係というのが生まれてきますので、そこをきちんとこなしていかないと田舎暮らしというのは出来ないと思います。それが出来るようであれば、その地域に馴染んで、家族経営が上手くいくんじゃないかなと思います。

あと、目標の中で、自分はどういう風な経営体を目指すのか。企業的な経営を目指すのか、農的暮らしでやっていくのか、少なくともそういったことを明確にしておかないと、一番最初の入り口で、やり方とか方法とかが違ってくるので、そこは心掛けて目標を明確にしておいて始めていただきたいです。(あとで変わってもいいので、まずは最初は自分の方向性をしっかり決めておく)

●参加者の方からの質問その1「就農当初の生活費はどのくらいかかりましたか？」

(綿住さん)多分僕は特殊な方で、師匠のハウスの隣のプレハブ小屋があって、そこに住んでいたんで家賃はゼロで、電気代も師匠に払ってもらいました。研修期間中も朝ごはん、昼ご飯は師匠のお宅でお世話になっていたんで、ほぼお金はかかってないです。2年ほど。

かかったお金は携帯代とかお風呂とか、阿蘇は温泉がいっぱいあるのでその年会費も安く1万円位だったので、そのお金くらいしかかかっておらず、研修期間中はあまりお金を使っていません。アスパラを植えて2年目からは収入もあったし、当時青年就農給付金といって毎年150万円国が給付してくれる支援制度があったので、それを使ってうまく軌道にのせたという感じです。

(吉村事務局長)私が一般的に言っているのは、就農するときは、2年間くらいは自己資金があった方がいいと話をしています。例えば生活費が300万円必要であれば、それだけのお金は持っておくべきだろうと思います。もし、農業の方で収入なくても生活できるというものを自分で持たないとあとが大変じゃないかと思います。

今、色んな交付金があつたりしますが、それを目当てにやっているようであれば、それがなくなったとたんに生活が出来ないという事になりますので、生産が軌道にのるまでの期間、食いつないでいく間の資金は一定程度必要なんじゃないかと思います。

綿住くんがさすがだなと思ったのは、通常的生活費は極端に抑えて、そして150万円もらっていた分はきちんとストックしていたということ。その資金を投資に向けたということが一番賢い方法で、ゼロからスタートできるひとつの大きな方法じゃないかなと思います。

自分の生活費を、研修中とか就農したての頃にどれくらい抑えられるのかが大事なことで、そうやって押さえれば、(支援制度の交付金の)年間150万円、2年で300万円分は確保できるのではないかと思います。それを投資に向ける、そんな視点でやっていただくとありがたいです。

●プレハブ倉庫での生活について

(吉村事務局長)冬は寒くて、夏は暑いです。

(綿住さん)断熱材もないのペラペラ壁なので、阿蘇も昔はマイナス10度とかになっていたので寒すぎてだいたい3時頃には目覚めてました。でも楽しかったですね。カエルの鳴き声中で寝たりとか、なんかサバイバル的な感じで面白かったです。いい思い出です。

ま、人間やる気さえあれば何でも出来るとその時改めて思いました。

●就農するにはそれで食べていくという「覚悟」が必要。

(綿住さん)そうですね。覚悟ですね。ま、でも僕は失うものがなかったから、その時、独身で、子供も奥さんもいなかったの、なんとでもなるや、どうせあと30年くらいしたら死ぬんだしとあんまり何も考えてなかったです。生まれてきただけでもいいかなと。それもあつたかもしれないです。

●逆に奥さんがいて、子供さんがいて新規就農を志している方には？

(綿住さん)そうですね。守るべきものがある場合はやっぱり守りに入ると思うのですが、例えば色んなやり方があつて、奥さんが勤めに出て、ある程度リスクを分散しながらやっていくとか、最初は旦那さんが1人で農業をやっていくとか…。独身で1人で農業をやっている人いっ

ばいいですからね。それで、経営が軌道にのったら奥さんに仕事を辞めてもらって規模を拡大していくとか。阿蘇の場合は冬は、キャベツとかレタスとかイチゴとかありますけど、(何でもというように)作物が作れないんで、冬の間は土方に行くとか、バイトしにいたりしてお金を稼いでもいいと思います。やっぱり結婚されている方が不安に思うのは生活費、経済的な面だと思うんで、そのあたりはそういった事で解決していくしかないかなと思っています。

(吉村事務局長)独身の時はある程度自由が利くので、作物もある程度選びは出来ますが、結婚しているとそうはいかなくて、どの作目もというわけにもいかない。絞り込んでいけないと思います。地域によって違いますが、その地域で安定的に収益があるような作物という形で絞り込んでいけないと思います。その中で、自分の資金的余裕をみながら考えていくことになります。

阿蘇の方だったら、アスパラだったりトマトだったり、イチゴであったり、ミニトマトであったりという風に、作物は一定程度絞られていくと思います。但し、そんな安定的な形ではなく、ゆっくりにした生活をすればいいというのであれば、もっと違った形があると思います。

やっぱり地域によって違うんですね。例えば柑橘で研修する場合、就農するとき(農地を含め)ある程度のもものが備わっている、就農して即、柑橘で生活がしていけるようなところがよいと思うのであれば、そちらに行って就農すればいいのです。研修品目は、その地域地域によって違います。

新規就農者は、自分で農地と作物を選ぶことができます。それを「人に言われたから」とか「あの人は儲かっているから」という風に思うのはいけないと思います。本当に細かいところは自分にしかわからないところがあります。

そして、適正というか、施設野菜栽培に向いている人と、路地栽培に向いている人、米・麦・大豆といった作物に向いている人と、人それぞれやっぱり違いがあります。その適性を自分も見極めないといけないですし、受け入れる農家さんにも見定めていただくということが大事だと思います。その上で、同時に出口(販路)のこともしっかり考えていくと、成功する道が見えてくるんじゃないかなと思います。

●参加者の方の質問その2「各種補助金の申請など市町村とのやり取りで重要なことは何ですか？」

(綿住さん)結論から言うと、その地域に根付いて、一生そこで生活していくという熱を伝えることです。何回も何回も通っているうちに顔見知りになっていきますので、色んな情報をもらえたり、信頼関係を築けていきます。補助金の申請にも意思疎通が出来るようになるので、やはり熱い思いを伝えていくことが一番大事じゃないかなと思います。役場の職員さんも人間なので、本気でやる気がある方にはきちんと対応してくれるんじゃないかと個人的には思います。

(吉村事務局長)その時にやっぱり重要なのが地元の人です。仲介してくれる人、あるいは関係機関など、そこが大事だと思います。綿住くんの場合、師匠の室さんが農業委員会とか市町村の農政課に話をしてくれていました。もし、いきなり1人で最初に「農業やりたい」ということで、農業委員会や農政課に行き、「農地が欲しい」といってもあまり良い反応はないと思います。これは正直なところですよ。(※解説)新規就農希望者は、まだ農家としての経験もなく、この人が本当に農業をずっとやっていくのか、途中で投げ出して農地を荒らすことにならないのかなどあらゆる面が未知数で、まだ信用がない状態という意味)

それが地元の信頼がある人と一緒に行くことによって状況が変わってきます。そして研修先で、自分が真剣に働いている姿を見せていると、地域の方はそれを見ています。じっと見ています。そして「アイツだったら農地を貸してやろうか」という話になってきます。ですので、最初に関係機関に顔を出しておくことは当然必要ですし、働いている姿を見せることは大事です。一番大事なことは挨拶をしていくということです。こういうことを周りの人に向けてきちんとやっていく事によって信頼を得られていくのではないかなと思います。

あと新規就農でやっていくには村の中で色んな活動があって、消防団だったり、色んな役が回ってきます。それを最初から嫌がってはだめです。大変だけれども、そこを一緒になってやっていくというスタンスが、やはり村の中に入っていこうとする人には必要だと思います。

(綿住さん)先ほど、地域にはいっていくために色んなことが大事という話がありましたが、僕の場合は保育園の保護者会の会長だったり、アスパラ部会に入っていますが、その副部長をしたりとかやっています。消防団には入っていません(笑)。年齢的に自分はお呼びがかからなかったようです。

(吉村事務局長)地域によるようです。笑。阿蘇(一の宮地区)は若い人が多いですが、違う地区になると40代でも若者に入ったりする地区もあります。

●熊本県内11か所にある県振興局 農業普及・振興課の役割について

(吉村事務局長)客観的に平等・公平に判断していただける場所であると思います。業者の方の情報というのは自分のPRには熱心ですが、いいところしか言わないです。しかし、県の方は売り方を含めて公平な形でやっていただいています。一番大事なのは新規就農者の立場になって相談できるという点です。何かわからないことがあったら新規就農者は振興局に相談し、検査だとかいろんな情報を集めることが出来ます。県の振興局を活用するということをやっていただきたいです。そうすれば人間関係も出来ますし、振興局の人も一生懸命やってくれます。病害虫が発生してわからないことがあれば、聞いてみるとか、県は試験研究機関を持っているので力になるのではないかと思います。(県の振興局は)公平な目でもって判断できることが一番じゃないかと思います。

◆イチゴ・トルコギキョウ農家 山中大輔氏 (南阿蘇村)

現在の経営状況について

現在の経営は37aのイチゴ(収穫時期12月~6月)35aのトルコギキョウ
就農15年目

農業研修先

東海大学農学部卒業

卒業後、3社の農業法人で研修を受け、平成18年南阿蘇村で就農。

研修先が法人だったので、周年出荷、契約販売、周年雇用、人材育成など一般的な農家で学べないことが学べた。

農業は博打だ!と周りや、周りの農家からも言われていたので、「公務員並みに安定した農家を目指したい」と強く思うようになった。

実際、研修先では実際できていたので、研修先の選択は重要!

新規就農当初の状況

就農時は22aの大玉トマトでスタート。

最初の2年間は上手く作ることが出来なかった。

3年目から順調に作れるようになった。

変化があったのは地域の先輩から規模拡大を勧められた6年目。

周年出荷と周年雇用を意識するようになった。

トマト栽培からイチゴ栽培へ

阿蘇は高冷地で冬が厳しく育つ作物が少ないので、周年出荷、周年雇用が厳しい地域。

自然薯、白菜、ブロッコリー、ほうれん草など冬に育つ野菜を育てたが、なかなか上手くいかずにいたところ6年前に、地元のいちご農家の先輩農家さんが「いちご面白いよ」と勧められ、いちごの栽培を決心した。

イチゴは13ヶ月仕事があると言われていた手がかかる作物。

当時トマト、ミニトマト、カラフルミニトマトと夏場い忙しく仕事をしていたので、なかなか両立が難しく、トマトもイチゴも上手く作れなくなっていた。

2年前にトマトを止めて、イチゴ栽培を主軸に夏に出荷時期の調整が出来る花きの栽培を始める。

これにより、11月～6月までイチゴの出荷。7月～11月までトルコキキョウの出荷。

作業に無理のない周年出荷が出来た。実際は目が回るくらい忙しい……

販路について

イチゴは名前と顔写真をつけての契約販売。

年に数回バイヤーさんと栽培状況や味、今後値展開などを協議している時期による単価の上下を気にすることが少なくすむ。

お客さんに選んでもらう為に、味にこだわり生産出来る。

直売も年々割合が増えてきているので、今後経営のもう1つの柱にしたい。

IPM(総合防除)に基づいた栽培。

これは害虫や病気を農薬だけに頼らず総合的に解決策を見つける栽培。

たとえばイチゴは10月に天敵農薬と呼ばれる天敵昆虫をハウス内に放資します。

害虫のハダニを食べてくれるダニ

アブラムシに寄生するハチ

アザミウマという小さな防除が難しい害虫にもそれを食べてくれるダニを入れます。

去年で合計5種類の天敵昆虫を放資している。

これにより農薬散布の重労働から解放される

しかし最低限の散布は必要

病気に関して

イチゴを植るハウスを夏場に締め切って土の中にある病気や害虫を蒸し殺す太陽熱消毒。
栽培中にハウスの温度管理を徹底してカビなどの病気を抑制

病気が出にくいイチゴの品種の導入

マルチを張ることで雑草の抑制

防虫ネットを張って大型の害虫の侵入を防ぐ。

AIを使った自動灌水で灌水の最適化

などなど総合的な管理を心掛けています。

学生の時に専攻が天敵昆虫だったので、その時の経験が役に立っている。

新規就農する時心がけてきたこと

新規就農で心掛けてきたのは、周りの農家さんと協調。

問題が起こったらすぐに相談

消防など地域の活動は積極的に参加

独立してからもしばらくは決算書をもって研修先の農家に相談に行ってた。

1番大切なのは家族を養うということ。

自分の子供たちが高校に上がるまでに頑張って経営を確立させたいという気持ちが大きかった。

何年後にいくら稼がないといけない、と計画を立ててそのための規模感、労働環境などを考えて実行していくことが大切！

新規就農を考える方へのメッセージ

新規就農者は就農する場所、作物、栽培方法、出荷先など悩みが多いと思う。

先輩農家を気軽に訪ねて行って相談する。その行動力が必要。

農業をしてよかったなと思う点。

子どもと一緒にいる時間が長い、行事にも夫婦で参加できる。

持続可能な農業を目指して

トマト農園Soil
熊本 農産

経歴

- 1977年生まれ
- 2000年 鳥取大学農学部農林総合科学科卒業
- ~2008年 オペラ舞台監督事務所、東京フィルハーモニー交響楽団にて舞台マネージャー業務に従事
- ~2012年 明光義塾、スクールIEにて教室長業務に従事
- ~現在 2年間の研修後就農。現在就農5年目

事業展開

- 農園事業
独自ブランド「あそふるトマト」として大玉トマト(麗月)とミニトマト(アイコ、試験品種救種類)を栽培。冬場は小松菜の契約栽培
- 飲食事業
自社生産のトマトを利用した「Soils cafe」を運営
7月~10月 モーニング(8時~11時)11月~6月 ティータイム(13時~15時)
- 宿泊事業及び観光事業
ゲストハウス運営
食育プログラム、体験学習など、教育・農業・観光を組み合わせたツアー

経営理念

先義後利

経営理念人が守るべき道徳を一番に考えて、利益をこの次に考えること
「義」は人としての道徳、仁義。「利」は利益。孟子の言葉

持続可能な農業とは

1. 環境保全と持続可能な農業
2. 経済活動としての持続可能な農業
3. 地域の存続と持続可能な農業

1. 環境保全と持続可能な農業

①環境負荷を抑えた栽培

残量肥料ゼロを目指す ⇒ 最小限の元肥施肥、自動澆水を用いた少量多澆水

②生態系の保全

病原菌、及び害虫の耐性取得を防ぐ⇒
在来天敵昆虫、阿蘇の野草の活用。
除草剤土壌消毒不使用及び農薬の削減

2. 経済活動としての持続可能な農業

①コストを抑えた栽培

- ・ 種からの栽培
- ・ 独自の育苗技術
- ・ 農薬削減と肥料の削減によるコストカット

②市場に左右されない多様な販売チャネル

- ・ 販売先を複数確保
- ・ 直売への移行とアンの獲得
- ・ 地域特性を活かした販売促進

2. 経済活動としての持続可能な農業

③独自ブランドの確立

- ・ ネーミング、パッケージなど統一イメージによるデザイン
- ・ 理念に基づいたターゲット設定
- ・ 地域ブランド、イメージを活用した戦略

④半農半X

- ・ 地域のファン作りにつながる活動
- ・ 消費者教育
- ・ 職人ではなく経営者としての生産活動

3. 地域の存続と持続可能な農業

- ①地域の強みを活かす
 - ・ 観光資源を活用
 - ・ 販売ターゲットと地域のファン層の共通化
 - ・ 関係人口増への関わり
 - ・ 移住と農業の魅力発信
- ②地域ブランドの維持、向上(南阿蘇の場合)
 - ・ 景観保持(野焼きの実施による草原の維持)
 - ・ 非効率な生産活動の在り方と農業人口維持増加
 - ・ 持続可能な農業への取り組みと自然のかかわりを発信

持続可能な農業とは

1. 次世代につなげる役目
2. 方向性だけを見定める
3. 人と比べるのではなく自然と向き合う
4. 理念に基づいた一貫性

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー「取材報告書」(2021年9月18日(土))

農家さんへの質問 1 綿住輝氏(阿蘇市一の宮町)

【アスパラ農家】

【家族】

Q:農業は1人でされていますか？それとも家族でされていますか？(会社員 男性 妻・子1人)

A:労働力は2人。自分が9割、奥さんが1割を担っています。

Q 夫婦で農業をするにあたっての良い点、悪い点 (建設業 30代 男性)

A:良い点

- ・一人ではできない作業、効率が悪くなる作業をテンポよくこなすことができる。
 - ・「専従者給与」という家族労働を経費にあげられる特例みたいなものがあります。節税になります。
 - ・一緒に過ごす時間が増える。(デメリットでもある)
 - ・個人的に新規就農は家族経営が最強だと思っていますので、最もおすすめします。何故かという雇用を入れない分、家の外に人件費などが出でいかず最も効率が良いと感じる。余計な気遣いも不要。もちろん雇用型農業は否定しません。
- 夫婦プラス α で売上 1000 万狙う感じがバランスが良いと個人的に感じる。

悪い点

- ・所得が農業に一点集中するのでリスクが高くなる。(台風、価格の暴落など)
- ・毎日顔を合わせることになるので飽きる。

【研修】

Q:綿住さんは農業に関して知識がゼロからのスタートというところですが、農業大学校に入り1から勉強するという選択を取らなかったのは何故か。(福岡市 会社員 20代 男性)

A:結論から言うと無駄だと思うからです。

野球の専門書を10冊読んでも一切キャッチボールすらできないのと同じ。

ガチンコで生活をかけながらやってる農家または農業法人で学ぶべき。

独立志向なら農家で学ぶの一択です。自分のやりたい農業に近いスタイルの農家さんで学ぶべき。

自然農法なら自然農、直販メインでいきたいなら直販メインの農家さん、観光農園なら観光

農園と自分が目指しているスタイルの農家を探すべき。

条件としては、

- ・自分が希望する売上利益を超えてあげているところ。
- ・上のように自分のスタイルにあっているところ。

人として合うあわないは飛び込まないとわかりません。

合わないと思ったらやめてもよいと思う。

自分の場合はスタイルに全くこだわりなく始めたので、すんなりいきました。

とにかく効率よく楽しく仕事して稼いだお金で人生を充実させるというのが自分のテーマなので、いまだにこだわりはありません。

【自然災害・気象】

Q:最近の異常気象、これからの気候変動についての見解は？また、それらに対する対策
(大学生 男性 20 歳)

Q 熊本は台風や地震、大雨など自然災害が多い印象がありますが、現地の農家さんから見て、リスクなどはあるのでしょうか？(福岡市 福祉関係 30代 男性 夫婦で就農予定)

A:異常気象に見解はありません。何故かというところについて考えたところで自分にとって何もプラスにはならないからです。

対策は重要です。

一般には知られていないが、農業に対しての所得の保証は世界的に手厚いです。

日本は薄い方と言われているがそれでも他業種に比べると相当手厚いです

価格急落時の保証・・・価格安定制度

収入保険・・・ケガや取引先の破綻や価格の急落などに対する補償

ハウス共済・・・ハウスが台風や水害でやられたときの保障

など税金が注入されている保障が多い。もちろん誰でも彼でも入れるわけではなく
一定の条件はあります。

あと対策としては夫婦でやられている場合は奥さんが別の仕事をやってリスクの分散をする
とか、副業をやるとか、農閑期に土方に行くとか、農業にこだわらないことです。

自然災害は熊本だけじゃなくて九州、四国は多いです。最近は悲しいことにほかの地域もひどいですが。

災害に関しては来ることを受け入れて、あとは上に書いたように色々な方法でリスク分散
です。

【農業】

Q:アスパラガス農家で良かったこと、また魅力を教えてください（福祉業 30代 男性）

A:良かったことは、最初の一回植えると、その後30年は植え付けの必要がないことです。なのでランニングコストが他作物に比べ低いはず。それと市場の単価がここ最近ずっと安定しています。

あと高齢になっても十分作業できること。作業内容が女性や高齢でもやりやすい。軽いので。基本的に長期採りなので、毎日コツコツできること。魅力は自由であること。この1点。

サポるのも休むのも稼ぐのも段取りも出荷先も作り方も組む人間も自由。

Q:農業経営、生き方などにおいて、大事にされている考えは何ですか。（大学生 男性 20歳）

A:自由の追求を大事にしています。

自由に仕事する、会社に属さない、上司にガーガーいわれない、入社時間も自由、

どれだけ稼ぐのかも自己責任、何時に寝て何時に起きるのかも自由、いつ休むのかも自由、めんどくさい飲み会にいかない自由、サービス残業なんか真っ平ごめん。

好き嫌いを自由に言う。キツイ意見を即いえる力など。

【資金面】

Q:初期投資をなるべくゼロに抑えようとおっしゃっていましたが、実際はどのくらいかかったか（エンジニア 男性 20代 妻・子1人 作目検討中）

A:「熊本阿蘇農業師匠」のホームページの“新規就農事例”コーナーに具体的な数字が掲載されています。ご確認ください。（回答:熊本県新規就農支援センター）



熊本阿蘇農業師匠 HP

Q:新規就農に向けて生活費は別として、お金はどれくらい準備したか？

(会社員 男性 30歳 妻帯者 作目検討中) (大学生 20歳 男性)

Q:研修中の生活費はどのようにしていたか。(建設業 30代 男性)

A:500万円を無利子の融資(現:青年等就農資金)を借りて自己資金700万円を足した1,200万円前後で土地、ハウス、軽トラック、ポンプなど色々買いました。

研修中は師匠のハウスの横にあるプレハブ小屋1年半位住まわせてもらい、電気代、朝食、昼食を師匠の家でお世話になっていたため、ほぼお金は使わずでした。

そこで浮いたお金も全額初期投資にぶちこみました。ただ、他の作物だとどれくらい必要かわかりません。また、地域によっても全然違います。ハウスや土地の値段も全然違います。

アスパラの場合、永年性作物なので、土地を借りた状態ではだめです。ちゃんと購入して始めないと、5年位経って地主が返してくれと言われてたり、相続で子供たちに土地の権利が移ったりしてトラブルになります。なので、作物と場所によるという感じです。一番いいのは、その場所の農業者に聞く事です。

【支援制度】

Q:各種補助金の申請など、市町村とのやり取りで重要なことは何か。(建設業 30代 男性)

A:その地域に根付いて一生そこで生活していくという熱を伝える事。何回も何回も通いながら農業に対して熱い思いを伝えるうちに信頼関係を築くことができ、色んな情報をもらえたりします。(※トークライブよりの抜粋。詳細はトークライブレポートをご覧ください)

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー「取材報告書」(2021年9月18日(土))

農家さんへの質問2 山中大輔氏 (南阿蘇村)

【イチゴ・トルコギキョウ農家】

【資金】

Q:新規就農に向けて生活費は別として、お金はどれくらい準備されましたか？

(会社員 男性 30歳 妻帯者 作目検討中) (大学生 20歳 男性)

A:学校を卒業後ずっと農業研修をしていたので貯金は少なかった。独立してから収入が入ってくるまで大変でした。

【作目設定】

Q:就農時、作物をトマトに決めた理由はなんですか？

(エンジニア 男性 20代) (建設業 30代 男性)

A:好きな野菜がトマトだった。トマト農家を訪ねた時食べさせてもらったもぎたてトマトに感動。阿蘇で就農を考えていたので主要作物がトマト(適地適作)

Q:途中で変えた理由や、変えた時に苦労した事がありますか？

(エンジニア 男性 20代) (30代女性 2人で施設野菜希望)

A:別紙、山中大輔氏のプロフィールをご確認下さい。(熊本県新規就農支援センター)

【栽培】

Q:トマトとイチゴの両立は栽培面積を調整するなどしても難しいですか？ (30代女性)

A:阿蘇は夏にトマト、冬にイチゴと棲み分けが出来そうですが、2つとも労働時間が多い作物なので大変です。どうしてもというならイチゴの苗を購入したり、トマトの植え付け時期をずらしたり工夫次第でできると思います。通常イチゴの苗は夏に作り育てます。

Q:イチゴの無加温栽培には何が必要だと思われますか？ (栽培地域、管理など) (30代女性)

A:していないので詳しいことは分かりません。同じ組合で無加温の方が居ました。海沿いで氷点下まで下がりにくく海風で霜が降りないなど適地ならば出来そうです。

【経営】

Q:財務管理は自分でされていますか？(30代女性2人で施設野菜予定)

A:自分でしています。

Q:農業経営、生き方などにおいて、大事にされている考えは何ですか。

(大学生 20歳 男性)

A:夢の計画と農業の終わり方。

Q:独立営農を始めて、想定外の問題はあったか。(建設業 30代 男性)

A:問題は毎日出てくるので毎日大変。研修先の農家さんの弱音を聞いたことがなかったの
で、自分も順調にいくものだと思っていたが、ただ弱音を見せなかつただけで、当時はすごく
大変だったと独立後相談に行った時に聞いたのが印象的でした。

【情報収集】

Q:営農に関する情報収集はどのように行っているか。(建設業 30代 男性)

A:JA や自身が出荷している組合、種苗会社、コンサルタント、資材のメーカー、ネット、学生
時代の友達、SNS など様々。

【気象・災害】

Q:最近の異常気象、これからの気候変動についてはどのような見解を持っていますか？
また、それらに対してどのように対策を講じていこうとされていますか？

(大学生 男性 20歳)

A:毎年気温が上がってきているので、作物の作り方と高温の限界が気になっている。
台風も大きくなってきているので施設園芸だけの経営に不安を感じている。

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー「取材報告書」(2021年9月18日(土))

農家さんへの質問3 荒木昌造氏(南阿蘇村)

【大玉トマト・ミニトマト農家、農泊、モーニングカフェ経営】

【準備した自己資金】

Q:新規就農に向けて生活費は別として、お金はどれくらい準備されましたか?

(会社員 男性 30歳)(大学生 男性 20歳)

A:自己資金 300~400万円。公庫からの借り入れ 600万円。計 1000万円

【経営】

Q:収入内訳が知りたいです(農業、農泊、カフェそれぞれの割合など)(大学生 男性 20歳)

A:農業分野 500万円、宿、カフェ 60万円

Q:農業経営、生き方などにおいて、大事にされている考えは何ですか。(大学生 男性 20歳)

A:理念を第一に。優先すべきことはなにごとにおいても優先すべき。自分の中で矛盾をつくらず例外を極力認めない。

Q:財務管理は自分でされていますか?(30代 女性 2人で施設野菜予定)

A:基本的な管理は自分で。申告自体や節税、減価償却については税理士さんをお願い

Q:独立後、安定するまでに要した期間・工夫はあったか。(建設業 30代 男性)

A:まだ安定とは言えないまでもとりあえずは4年。おそらく遅い方。慣行的なやり方に準じて栽培に集中していれば1,2年で確立することも可能か。自分はむしろ積極的に失敗をすることを目標にしていたため時間がかかった。

Q:経済としての農業の役割とは何だと思えますか?(エンジニア 男性 20代 妻・子1人)

A:食糧生産は国家、社会の基盤。ただし、今後食糧生産は効率化、機械化が進み、生産に特化した農業の役割を担える地域は限定的になってくるのでは。中山間での非効率、非生産的な活動の意義は農業を通じた自然と人の調和やかかわりを結ぶ役割を担っていくと考えている。

【作目について】

Q:自社トマトを作るまでに苦労したことはなんですか?(エンジニア 男性 20代 妻・子1人)

A:差別化。ターゲットの絞り込みとターゲットに向けた施策ですべきことの選定。

Q: トマトを銘打ちブランド化した後と前とでは、収益にどれくらいの違いがあるのか。

(福岡市 会社員 20代 男性 妻帯者)

A: スタートは栽培技術の不足や価格の暴落、病害発生などがあり一概に比べられないが最低ラインを切ることはなくなった。今年は大暴落したがなんとか売り上げは前年超えを達成しそう。収益が上がるというよりは安定する可能性があがる。

【農カフェ・農泊との両立について】

Q: 農業と農泊・カフェどのように両立しているか、コツや生活様式などを知りたいです。

(大学生 20代 男性)

A: やる気と気合。農業以外は収益を上げる事業として位置付けていない面もあるためモチベーションが大事。栽培したトマトを直接提供して直に反応を見たい。などの想いが必要。母親の助けもあるためなんとか成り立っている。ただ、宿泊事業は思いのほか利益率が高く月に20万近く収益があがることも。

Q: カフェを始めたのは就農から何年目ですか？栽培管理と両立出来ると思われた時の状況(雇用など)も知りたいです。(30代 女性 施設栽培を2人する)

A: カフェは3年目から。雇用は4年目から本格的にスタート。実際は両立できているとは言えない状況。かなり無理をしているためおすすめはしない。自分はやりたいこと、理念に従ってやるべきことをやっているだけ。できるかできないかはあまり考えないようにしている。

Q: 就農をされる時から、農泊、カフェ経営をするというビジョンを持っていたのでしょうか？(福岡市 福祉関係 30代 男性 夫婦で就農予定)

A: 研修を始めたときはのんびり狭い面積を細々としながらカフェでもしてゆったりすごすつもりでした。トマトについて学ぶうちにいけることまでいこうとおもい就農。しかし、栽培していく中で環境負荷や世界と日本の差や違いに違和感を覚え、なにをすべきかと考えるなかでカフェなども運営するように

【販路・販売方法について】

Q: 直販を始めるにあたって必要なことはなんですか？(建設業 30代 男性)

A: ターゲットを限定すること、的確なパッケージング(デザイン、包装、ネーミング)そしてパッケージを裏切らない味と品質を伴うための栽培方法の選択

Q: 販路を拡大するの時に大事な事はなんですか？(エンジニア 男性 20代 妻・子1人)

A: 結局は人とのつながり。テクニックは様々あっても、つきあうバイヤーさんとの信頼関係、仲間、それとそこから得られる情報に基づいて、需要をキャッチし需要にこたえること

【相談】

Q:営農地での先輩農家の方で、相談できる農家はどのようにみつけたか。(建設業 30代 男性)

A:偶然。ただ、できる限り勉強会やセミナーには参加する。ネットは SNS も活用する
個人的には他県などにも積極的に訪問するべきだと思う

【自然災害・気象】

Q:最近の異常気象、これからの気候変動についてはどのような見解を持っていますか？

また、それらに対してどのように対策を講じていこうとされていますか？(大学生 男性 20歳)

A:専門家ではないためはっきりしたことは申し上げることができない。見えない部分やわからないことがあることを認めることが大切だと思う。自然をコントロールすることはできないし、人が認知できる自然の仕組みはほんの一部にしかすぎない。ただ、事実として環境に負荷をかけ自分たちの子孫に負の遺産を残していることは明白。すべての選択において環境負荷を減らすことを第一にすることを自分に課している。そのためであれば収益性や経済性、効率を落とすことも進んでおこなう。

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー「取材報告書」(2021年9月18日(土))

NPO 法人九州エコファーマーズセンター吉村事務局長への質問

【(研修機関) NPO 法人九州エコファーマーズセンター】

◆NPO 法人熊本県就農支援機関協議会事務局長

(熊本県認定研修機関19機関をとりまとめる機関)

◆熊本県地域就農支援アドバイザー(阿蘇地区)

Q: 独立後に成功する方、失敗する方の傾向はあるか。

個人農家として一人でやるうえでの留意点は何か。

(建設業 30代 男性)

A:

成功する人・コツコツと継続してやる人。人のいう事を素直に聞く人

失敗する人・自分の思いだけで突っ走ってしまう人

個人農家として1人でやるにしても、1人だけでやるのは難しいです。

仲間やその地域の人達と一緒に信頼感を持ってやっていくのが大事です。

Q: 自分は今後、生活を行う場所(熊本市南区)は決めているのですが、場所を決めたことにより、就農の方法や野菜の作付品目に縛りが出てくるのか。

(福岡市在住 会社員 20代 男性 妻帯者 施設野菜希望)

A: 栽培するにあたり、圃場の近くに住むのが望ましいです。

「適地適作」というものがあり、地域に合ったものを作っていくのが一番やりやすい方法です。

令和3年度熊本県新規就農現地研修バスツアー「取材報告書」(2021年9月18日(土))

その他の相談・質問

【回答：熊本県新規就農支援センター】

【作目選定について】

Q:コロナ禍の中でも、このような機会を作って頂き、本当にありがとうございます。
正直、どれを育てないのか、どこで何を作りたいのか、わからなくなっています。
この機会を大切にしていきたいです。よろしくお願いします。
(福岡市 福祉関係 30代 男性 夫婦就農予定)

A:熊本には県が認定する19機関20か所の研修機関があります。研修品目は作目選定のひとつの目安になります。県内各地のJAや市町村など地域に根差した研修機関の研修品目は、その地域でよく作られる栽培作目で、新規就農者の方でも生活の見込みを立てやすいものが選定されています。また、農大、NPO法人、有機農業、酪農などの研修機関は、熊本県内どこでも就農可能です。こちらも研修品目を参考にしてください。

◎研修機関については、当センターの公式HPや、熊本県新規就農支援センターが発行する熊本県新規就農ガイドブック「夢みのる大地とともに」P6をご覧ください。

長期研修に入る前には、一度インターンシップ体験を受ける事をお勧めします。
インターンシップ体験、研修機関の選定などのご相談は熊本県新規就農支援センターにご相談ください。(事前予約制)



公式HP「長期研修」



夢みのる大地とともに P6

【研修区分】※夢みのる大地とともにP6より

- ①地域に根差した研修機関・・・「各JA」「協議会型の研修機関(※1)」
- ②熊本県の教育機関・・・「熊本県立農業大学校研修部」
- ③有機農業に特化した研修機関・・・「(特非)熊本県有機農業研究会」
- ④酪農に特化した研修機関・・・「熊本県酪農業協同組合」
- ⑤広域ネットワーク型・・・「NPO法人九州エコファーマーズセンター」

①は研修後その地域で就農する事が条件 ②～④は熊本県全域が対象 ⑤日本全国就農可
(※1)協議会型とは?⇒県・市町村・農業委員会・研修機関が一体化した研修機関。
JAあしきたも協議会型として活動されています。

【課題】

Q:熊本で営農していくにあたっての課題は何か。

A:独立就農するということは、「覚悟」が必要です。

気象、鳥獣害、栽培作目など、それぞれの地域によって課題が変わってきます。

「熊本」という大きなくくりで考えるのではなく、営農する地域について、自らの足を使ってしっかりと情報を収集し、地域の方との良好な関係を築きながら1つずつ課題を解決していきましょう。

【気候・環境問題について農家への支援（指標）はあるか】

Q:今後の気候・環境問題について、国、県からの個人農家への支援（指標）はあるか。

A:農林水産省のHP「我が国の環境政策に関するポータルサイト日本の環境政策」などをご参照ください。農林水産省や熊本県のホームページでは、さまざまな情報を発信しています。農業を営む上で、情報収集はとても大切です。常にアンテナを張っておくように心がけましょう。

【中古農機具店情報】

Q:中古農機具店の有用な情報はるか。

(建設業 30代 男性 就農に向けて研修機関を選定中)

A:熊本県新規就農支援センターホームページ「リンク集」の中に中古農機具情報のサイトをご紹介します。また NOSAI 熊本のホームページの「農機具リサイクル」ページには農業共済組合員向けの情報が掲載されています。中古ハウス、中古農機具は、農地と同様に地域の方との信頼関係の中から情報を得られるものが少なくなく、まずは信用を築くことが大切です。